

番号	1-01	研究課題	粒子材料の複合化に関する研究開発				
評価項目			評価点5	評価点4	評価点3	評価点2	評価点1
1	目標達成度		4	1	1		
2	有効性		3	3			
		当初目的以外の成果	1	5			
3	効率性・妥当性	費用対効果	3	3			
		手法等	1	3	2		
4	成果の活用・発展性		5	1			
5	総合評価		4	2			
<p><主な助言・指摘事項等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの課題について大きな成果を上げ、それぞれに発展性がある。石灰の定量分析の成果については、さらに広がりのある標準化に進むことが期待される。 ・ 特許出願2件、特許実施許諾2件、技術移転4件に加え、日本石灰協会に分析方法のガイドブックを提供するなど、実用性の高い成果が多数得られている。 ・ CNFの分散性を利用し、これに吸着させることにより、銀などの凝集を防ぐという逆転の発想が評価できる。 ・ 実用化に向けたコストメリットの研究もあれば、表記してほしかった。企業との共同研究、PR活動を通じて実用化に期待する。 ・ 新材料の開発・実用化は、すばらしい成果である。石灰石の機器分析技術は化学（湿式）分析に対し画期的である。 ・ 成果の今後の発展可能性も期待できる結果となり、評価は妥当である。 							

評価点数： 5 著しい成果が得られた 4 十分な成果が得られた 3 一定の成果が得られた
 2 見込んだ成果を下回った 1 成果が得られなかった

令和2年 8月25日

(単位：人)

番号	1-02	研究課題	清酒製造技術の高度化に関する研究開発				
評価項目			評価点5	評価点4	評価点3	評価点2	評価点1
1	目標達成度		1	3	2		
2	有効性		1	4	1		
		当初目的以外の成果		5	1		
3	効率性・妥当性	費用対効果	1	4	1		
		手法等		3	3		
4	成果の活用・発展性		3	1	2		
5	総合評価		1	4	1		
<p><主な助言・指摘事項等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットを明確にし、試作されたテスト装置を用いての最適条件を得ることができた。温度、湿度などのデータも取得しているようなので、基礎的なデータの麴に対する効果を示してほしい。現場でのスケールアップ研究が期待される。 ・製麴工程における最適な温湿度制御方法を見出しており、学会での受賞などアカデミックな成果だけでなく、地域企業とのサポイン採択など、実用性の高い成果が得られている。 ・経験則から得られた技術であるが、理論構築を期待する。 ・熟練技術者の経験と勘に頼らない生産技術の確立は、技術伝承の面で評価できる。岡山県産酒の高品質化とブランド化に寄与する技術への発展に期待する。 ・日本酒は県内の酒造メーカーには重要品種であり、育成は大切である。技能の機器技術化・高級酒造り・数量増加への成功は大きな成果である。 ・高品質な麴の安定量産が可能になったことは評価できる。今後のブランド化に期待する。 							

評価点数： 5 著しい成果が得られた 4 十分な成果が得られた 3 一定の成果が得られた
 2 見込んだ成果を下回った 1 成果が得られなかった

番号	1-03	研究課題	構造制御技術を用いた高分子複合材料の開発				
評価項目			評価点5	評価点4	評価点3	評価点2	評価点1
1	目標達成度		3	2	1		
2	有効性		2	3	1		
		当初目的以外の成果	1	4	1		
3	効率性・妥当性	費用対効果	1	4		1	
		手法等	1	3	2		
4	成果の活用・発展性		3	2	1		
5	総合評価		2	3	1		
<p><主な助言・指摘事項等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな観点からプラスチックの特性向上を目指し、それぞれに成果を上げている。販売に至った成果もある点を評価する。 ・プラスチックおよびゴムのフィラーによる機能向上について興味深い成果が得られており、さらに実用化により研究成果が社会に還元されている。加えて、学会での受賞が2件あり、学術的にも高い評価を受けている。 ・個々の材料について特性向上が得られている。汎用的な材料に適用できる理論構築を期待する。 ・企業支援を主目的とした場合、実用化が求められるため、本研究においてはコストメリットの評価も性能と合わせて行うべきである。3つの小テーマには、業界では周知技術と思われるテーマもあり、研究テーマの設定には疑問点もある。研究費用には、企業への相談指導対応も含むとの発表でしたが、本研究だけに対する費用と考えると費用対効果に疑問を感じる。 ・PPの強じん化、難燃化など、画期的な成果を上げている。高い評価で受賞や実用化も達成している。 ・プラスチック材料のリサイクル技術への応用が期待される。 							

評価点数： 5 著しい成果が得られた 4 十分な成果が得られた 3 一定の成果が得られた
 2 見込んだ成果を下回った 1 成果が得られなかった

番号	1-04	研究課題	塩素系薬剤の作用機構と高分子材料への影響に関する研究			
評価項目		評価点5	評価点4	評価点3	評価点2	評価点1
1	目標達成度	2	3	1		
2	有効性	2	3	1		
	当初目的以外の成果	3	2	1		
3	効率性・妥当性	1	3	2		
	費用対効果	1	3	2		
	手法等	1	3	2		
4	成果の活用・発展性	3	1	1	1	
5	総合評価	2	3	1		
<p><主な助言・指摘事項等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・亜塩素酸に対する基礎的な研究と位置付けられ、いろいろな現象に対する利点を明確にしている。一方でコストに対する価値についての言及がなかったことが残念である。その他の成果については発展性が明確である。 ・特許2件に加え学会での受賞2件があり、実用的かつ学術性の高い成果が得られている。県内企業との実用化研究にも着手しており、その成果に期待する。 ・発展技術を積極的に試みている。試薬製造方法の工夫でコスト面の克服を期待する。 ・実用化に向けた今後の取組に期待する。 ・殺菌といえば次亜塩素酸が常識の世界に、亜塩素酸の利用と実用化に途を創った。 ・ストレッチデニムのブリーチ加工技術は県産デニム製品のブランド化に寄与するものと期待する。 						

評価点数： 5 著しい成果が得られた 4 十分な成果が得られた 3 一定の成果が得られた
 2 見込んだ成果を下回った 1 成果が得られなかった